

第12回長崎県海岸漂着物対策推進協議会議事録

(下野課長補佐)

それでは定刻となりましたのでただ今より第12回長崎県海岸漂着物対策推進協議会を開催いたします。

本日司会の長崎県廃棄物対策課の下野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

開会に当たりまして長崎県廃棄物対策課の重野課長より挨拶を申し上げます。

【重野廃棄物対策課長より挨拶】

(下野課長補佐)

本日まで出席の委員につきましては、お手元の委員名簿のとおりとなっておりますが、4月の人事異動により平戸市市民課長、対馬市環境政策課長、長崎海上保安部警備救難課長、長崎県水産部参事監、環境部次長に異動がっておりますのでご報告いたします。

なお、本日、熊委員より急遽ご欠席との連絡を受けておりますので併せてご報告いたします。

それでは、議事の進行につきましては、石橋会長をお願いいたします。

(石橋会長)

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

会議次第の2、協議・報告のうち、協議事項の「漂流・漂着ごみ対策に係る県内の取り組みについて」、①の回収・処理について、②の発生抑制対策について、を併せて事務局から説明願います。

(事務局) 資料1、2、参考資料1、2により説明

(壱岐保健所) 壱岐島におけるペットボトルを用いた海岸漂着ごみの定期モニタリングについて説明

(石橋会長)

ありがとうございました。委員の皆様からご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

(長野委員)

資料2の3ページ、⑥の日韓海岸清掃フェスタについて、今年度からNPO法人の対馬CAPPAが主催で、対馬市と県は共催となっております。

(朝倉委員)

回収量について、重量のほかに立法メートルで出しているが、そのようにして出しているのでしょうか。

(事務局)

資料1についてですが、市町からの補助金の実績報告のなかでトン袋いくつ分といった形で報告があったものを集計している。

(朝倉委員)

市町の職員の方が、立法メートルをどうやって出したのか分かる方、いらっしゃいませんか。

(長野委員)

対馬市では廃プラ類は0.05、漁網は0.3といった係数を掛けて出しているようです。

(石橋会長)

トン袋に回収したものを種類ごとに係数を掛けている。トン袋が1m³。重量を測っているわけではないと思います。

(朝倉委員)

そうするとどっちの数字も・・・。

(石橋会長)

正確ではないと思いますよ。

(古川委員)

マイクロプラスチックの調査が行われているが、波打ち際で調査したのか沖の方での調査なのか、また魚が食べるから人間にも影響を及ぼしているのか分かりませんので、教えてください。

(事務局)

マイクロプラスチックは、例えばレジ袋などが紫外線などで劣化して、波など

で砕かれたりして直径が5 mm以下に微細化した粒子のことです。

また、洗顔料に含まれる汚れを落とすマイクロビーズなども影響が問題視されております。

マイクロプラスチックを魚が食べてそれを人が食べてといった食物連鎖の影響が議論されており、マイクロプラスチック自体は摂取しても体外に排出されるけれども、それに有害な物質が付着して体内に取り込まれることが問題視されています。

補足しますと、海洋中にDDTやPCBといった有害物質が極微量とは思いますが、含まれており、これらは油に吸着しやすい性質をもっておりまして、先ほど例がありましたレジ袋は油できておりますので、DDTやPCBといった有害物質を付着しやすいと、食物連鎖の中で濃縮されやすいと、それが人の健康や生態系に影響を与えていると。そういった仕組みになっています。

(古川委員)

魚の種類によって食べる、食べないはないのでしょうか。

(事務局)

好んで食べるというより間違っって食べる、小さいです所以間違っって入っってしまうというのが正確ではないのでしょうか。

(早田委員)

壱岐保健所のモニタリング調査の報告を見ますと、中国からのごみ54%と多いようですが、日韓関係では漂着ごみに関する会議とかいろいろやっておられるようですけれども、中国とはどのようなやりとりをされているのでしょうか。

(事務局)

国の会議などでは話をしていますが、細かい交流までは進んでいないというところでは。

(早田委員)

こちらのごみが向こうに行っているとかの調査はされてないのでしょうか。

(事務局)

調査結果自体を持ち合わせていないが、こちらからも向こうへ行っているとは思いますが、海流の流れで、向こうからの方が多いいと思いますが、全く行って

いないということは無いと思います。

国の調査で平成22年から26年に対馬でペットボトルを用いて調査した結果では、海外からが84%で韓国が51%、中国が28%、台湾が3%という調査結果はあります。調査によりどの国からが多いという違いはありますが、海外から大量に流れてきているという事実があるをご理解いただければと思います。

(石橋会長)

ペットボトルの調査について、年度末は数が25集まらなかったということですが、たくさんある25以上ある時はどのようにピックアップされているのでしょうか。

(壱岐保健所)

調査方法については特に決めていないが、年間通して2~3人で15~20分の調査時間の中でランダムに25本集めた中での分析です。12月ごろの調査で25本取れなかったことがあり、原因は不明だが、もしかしたら清掃が行われたことも考えられると思っております。

(朝倉委員)

先ほどのマイクロプラスチックの説明の中で、気になったのですが、DDTやPCBが必ずしもあるわけではなく、先ほどの説明のところだけ聞くと非常に危ない印象を受けましたので。海の中にDDTとPCBとプラスチックがあったらプラスチックのところに行きやすいということであって、マイクロプラスチックにDDTやPCBを含むと理解されては困る。

(山口委員)

壱岐保健所のペットボトルを用いた調査について、半数以上が外国のもので、4割強は国内のものとなるが、外国の対策は確かに必要だが、国内の対策等は検討されておられるかお聞きしたい。

(壱岐保健所)

ボランティアリズム in 壱岐の中で実際に漂着の現状を見ていただくとか今回の調査結果についても発表させていただき参加者にポイ捨てをしないようにといった普及啓発を行っている。

(石橋会長)

ボランティアリズム in 壱岐の話が出ましたので、今年はまだ終わられていません

よね。今回の状況について少しご説明いただいでよろしいでしょうか。

(中山委員)

もともと観光というテーマで動いていたんですけれど、その中で海岸ごみ、環境問題が絡むということでボランティアとツーリズム併せた取組ですね。

島内のごみを何とか無くすと、ただ無くすだけでは減らないということで壱岐の島の周りの長崎、佐賀、福岡の大学生に呼び掛けまして、現状を見せるということで発生抑制対策に繋がると。

去年が340名くらい、今年も340人くらい参加してます。そのうち180名くらいが高校生なんです。若い人に現状を見てもらい、日本でも韓国でも、「拾う人は捨てない」ということでやっております。

それと併せまして壱岐の散策、観光を組み合わせる壱岐のPRということでやっております。

(石橋会長)

この発生抑制対策については、ボランティアの重要性ということがあげられるかと思いますが、出席されている委員の中にもボランティア活動されていらっしゃる方、おられますけれども、何かご意見等ありませんか。

(浅田委員)

私ども環境カウンセリング協会長崎では、毎年、長崎大学他市内の大学生を募って五島、壱岐でボランティア活動を行っております。ワークショップなどやっておりますして、漁業系のごみが多いなど、網やロープなど重いですし、海岸からあげるのも大変な、あと大きな発砲スチロールや浮き球が多いなど感じております。

私どもの仲間でも話したんですが、浮き球の調査をしてみても思っております。だいたいどこから来たか分かるようですし。

学生さんを離島に連れて行っているのはマンパワーとしてということもありますが、都市で生活していると海岸の状態が分からないからなんです。エッと驚くのが第一印象ですし、そういう彼ら彼女らの気持ちを大事にもらって、SNSなどで発信してもらえばと思ってやっております。取るのもひとつの手段ですけれども、認識してもらおうというのも一つの手段と思ってやっております。

(石橋会長)

他ございませんでしょうか。

本日は市町の担当者の方も多数出席されておりますので、委員の皆様のご意

見等を今後の事業の参考にいただければと思います。

次に報告事項の（２）海ごみ交流事業について、事務局から説明をお願いします。

（事務局） 資料３により説明

（石橋会長）

少し時間がありますので、その他にこの場でお話しておきたいことなど、委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。

（浅田委員）

具体的な数字じゃなくて感触で恐縮なんですけれども、海岸清掃をやっておりまして、河川からの流れ込みとといいますか、漂着ごみの多い所は河川があって、対馬はちょっと例外でしょうけれども、河川からの流れ込みを感じることがあります。

街ごみが海岸に辿り着くといったこともありますので、すこしそういった切り口も必要かなと思っております。

長崎港のごみは中国、韓国ではなく、間違いなく街ごみですから。

海外だけでなくそういう視点でも事業をしてもらえればなと思います。

（事務局）

ご意見ありがとうございます。浅田委員が言われるように４離島は海外のごみが多いですけれども、先ほどの壱岐保健所の調査でも４割強は国内のごみとなっておりますので、そういった普及啓発も含めて事業をやっていきたいと思います。ありがとうございます。

（早田委員）

田平は、ロートのような黒い漁具や発砲スチロールの箱、網のくずなどが多い。外国のペットボトルなどもないし、子供たちも今は捨てたりしない。

漁業者への普及啓発はできないものでしょうか。自然に流れてくるものなのでしょうか。捨てられているのでしょうか。

（事務局）

基本的に捨てられているものと思います。我々も海岸で目にしますし、それが、海外のものか国内のものかは分かりませんが。

田平ということであれば、海外というよりは国内のものと思います。海に捨て

ないことはもちろん、不法投棄しないようパトロールなども実施しておりますし、漁業者への周知徹底についても今後図っていきたいと考えております。

(石橋会長)

県の方から漁協に要望書を出すとかは。

(事務局)

まだ今のところは。

(石橋会長)

ご検討いただければと思います。

(中山委員)

去年、韓国に行った際、自然に還る素材の漁具が開発されているとも話を聞きました。漁具については、捨てている分もあれば時化等で壊れて流れていることもある。漁業者だけでなくメーカーにも自然に還る素材の開発をお願いしたい。

(石橋会長)

それでは、他にないようでしたら、これをもちまして、第12回海岸漂着物対策推進協議会を終了します。進行を事務局にお返しします。

(下野課長補佐)

石橋会長ありがとうございました。

委員の皆様、長時間にわたるご協議ありがとうございました。

以上で本日の協議会を終了させていただきます。大変お疲れさまでした。